

海外で翻訳 語学で 独立 退職し留学

じゃかるたインドネシア語レッスン代表
インドネシア通訳・ビジネスサポート代表

清水 純子

海外にはチャンスがいっぱい！

建設会社で働く設計士

月収17万円



海外で10回以上拠点を換えながら
自宅や旅先で働く翻訳者

月収100万円達成

語学で独立

じゃかるたインドネシア語レッスン代表
インドネシア通訳・ビジネスサポート代表

清水 純子

もくじ

はじめに.....	5
第1章 将来何になりたいの？.....	6
何かにならないといけないの？.....	7
将来のことは分からない.....	8
第2章 なぜ働くの？.....	9
大人になったら親孝行.....	10
何でもタダの鉱山集落での生活.....	11
なくなる仕事となくなる仕事.....	12
お金も物も回して幸せに.....	13
第3章 小・中学生の時、好きだったことが仕事選びの根っこに.....	14
父が認めた私の好きだったこと.....	15
好きなことには取り組んでみる.....	16
第4章 建築を通じて協力し合うことを学んだ会社員時代.....	17
担当した設計の思い出.....	18
学校で学ばなかったことを教えてくれた会社.....	21
大きな力を持つ財閥って何.....	22
建設会社の中身.....	23
建築設計の中身.....	24
ひとりでは建てられない建物.....	25
第5章 憧れていた語学の仕事.....	26
手掛けた翻訳の例.....	27
意見は言えない通訳者.....	31
英語だけじゃない世界の言語.....	32
仕事はできる範囲でやってみる.....	33
クオリティが良いと山ほどもらえる仕事.....	34
見た目より手間暇がかかる翻訳.....	35
どんなジャンルでも欠かせないインターネット検索.....	36
体力勝負の通訳と限られている自分の時間.....	37
ビジネスサポートの例.....	38

自分が看板.....	39
広告の例.....	40
広告結果の例.....	41
さいごに.....	42
著者紹介.....	44
【著者のビジネスサイト】	46
【著者の SNS】	46

はじめに

この本はもともと、将来、大人になった時のことを考えている子供向けに書きました。

インドネシア語を勉強した私がどのような仕事をしてきたかが書いてあります。

自分でもあまり気が付かなかったのですが、私の仕事は子供のころから好きだったことがもとになっていました。

本書を手にとって下さったあなたはもう大人だと思います。

今、何かのお仕事をしておられるのではないのでしょうか。

ですから、私のこれからする話は役に立たないかもしれません。

でも、あなたが幼い時に戻った気持ちになって、この本を読んでいただければ、あなたのやりたかったことに立ち戻れるかもしれません。

あなたが考えるきっかけになれば嬉しいです。

2022 年 1 月 3 日、大人向けへ改訂のため、バンドアチェの家で

清水 純子

第 1 章 将来何になりたいの？

何かにならないといけないの？

幼ない時、「将来何になりたいの？」とはじめて誰かに聞かれた時のことを覚えていますか？

あなたはその時「え？ 大人になったら何かにならなくちゃいけないの？」と思いませんでしたか？

もし、そう思ったことがあるなら私と一緒にです。

私もそう思いました。

そんな風に思わなかったとしたら、お父さんやお母さん、そして周りの人々を見ているうちに「将来は何かになるもの」だと、あなたは自然と分かったのかもしれないね。



将来のことは分からない

私は子供の時、将来何かになりたいとは思いませんでした。

兄が「将来はバスガイドになったら？」と言ったことがあります。

私がまだ保育園に行っていた時です。

私は口に出しては言いませんでしたが、本当は何になりたいなんて考えたことはないし、将来のことなんか分からないと思いました。

実際、将来のことは誰にも分かりません。

だから、もし、あなたが将来のことはまだ分からないと思っても、心配しないでください。



第2章 なぜ働くの？

大人になったら親孝行

私の話をする前に、私の両親の話をしてします。

私の母は専業主婦で、父は中学校の先生でした。

母が家のことは何でもしてくれました。

父の学校での仕事ぶりは直接見たことがないので分かりませんでした。が、よく家に仕事を持ち帰ってテストを作ったり、採点をしたりしていて、私がテストの採点を手伝ったこともありました。

また、休みの日なのに、急に連絡があり、警察に捕まった生徒を父が迎えに行ったことをよく覚えています。

そのような両親の姿を見ていて、大人になったら親孝行しようと心のどこかでずっと思っていました。



何でもタダの鉱山集落での生活

母と父は、大規模なある鉱山集落で知り合いました。

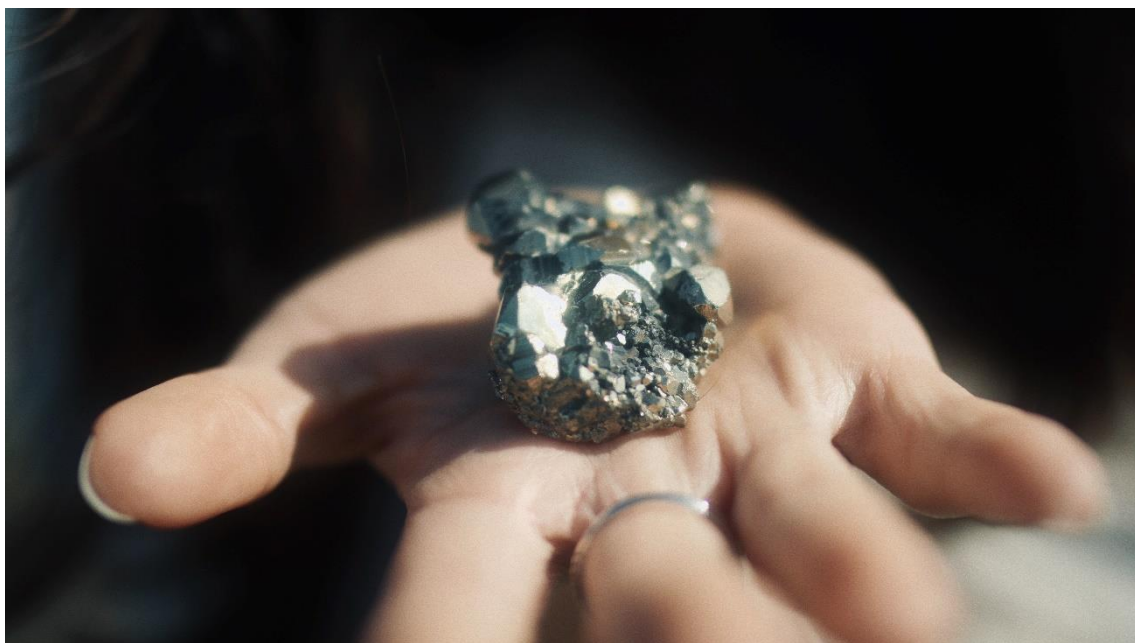
母は鉱山会社の事務員、父は鉱山集落の学校の先生でした。

その鉱山会社はとても賑わっていましたが、鉱山から川へ流した汚れた水のせいで、川の下流の人々がイタイタイ病という重い病気になったことでも有名です。

母も父も鉱山集落で結構な良い生活をしていました。

社宅に住んでいたのも、家はもちろん、電気、ガス、水道、冬の暖房費など、全てがただだったのです。

山奥にあったその集落には劇場があり、東京で封切りされた最新の映画や、日本で一番売れていた歌手や芸能人の興行もただで見放題でした。



なくなる仕事となくなる仕事

母と父が結婚した頃、父が遠くの学校へ転勤になったので、母は会社をやめ、父についていきました。

母は兄、私、弟の3人を生み、子育て、掃除、洗濯、料理など家のことは全てこなしました。

そして、私たち子供のそばにいつも寄り添ってくれました。

私の両親が鉱山集落を出てから、その鉱山は少しずつ規模を小さくし、最後には鉱山も会社も集落もなくなりました。

鉱山から採れる亜鉛や鉛などが売れなくなったからです。

この話を聞いてきた私は、会社は最後にはなくなるけれど、母のする家の仕事はなくなっていないし、父の先生の仕事もなくなっていないなあ気づきました。



お金も物も回して幸せに

今、母も父も歳を取ったので、たいした活動はできません。

今のところ、日本の国がお年寄りには年金をくれるので、母も父も生活には困っていません。

でも、子供の私が、体が弱くなった両親を何かにつけ助けなければなりません。

両親を始め、周りの人々があってこそ自分です。

仕事をしてお金をもらうのは、自分自身と家族のためでもあるけれど、両親や周りの人々へそのお金を回していくためです。

そして、回るのはお金だけではありません。

例えば私がお客様へ渡すサービスや物は、お金を払ったお客様へ回っていきます。

そのサービスや物はお客様に役立ちます。

私は「役に立つ」と幸せになるので、その幸せのために働きます。

でも、自分を犠牲にするのではなくて、自分をまず大事にするのは言うまでもありません。

第3章 小・中学生の時、好きだったことが仕事選びの根っこに

父が認めた私の好きだったこと

私は小・中学生の時、理科の授業が好きでした。

特に実験室でする理科の実験が大好きでした。

そんな私に父が「純ちゃん（私のこと）は理科が好きなんやなあ。高専（学校の名前）に行くといいぞ」と言ったことがありました。

中学卒業後、私は自分で選んで高専に進学しました。

父は自分が言ったことを忘れていてでしょうが、父の言ったとおりになりました。

そして、やはり小学生ぐらいの時、父が家の増築を考えて、家づくりの本を見たり、間取り図を描いたりしていました。

その時、私も一緒になって、増築部分の間取り図を好きなように考え、描くことを楽しんでいました。



好きなことには取り組んでみる

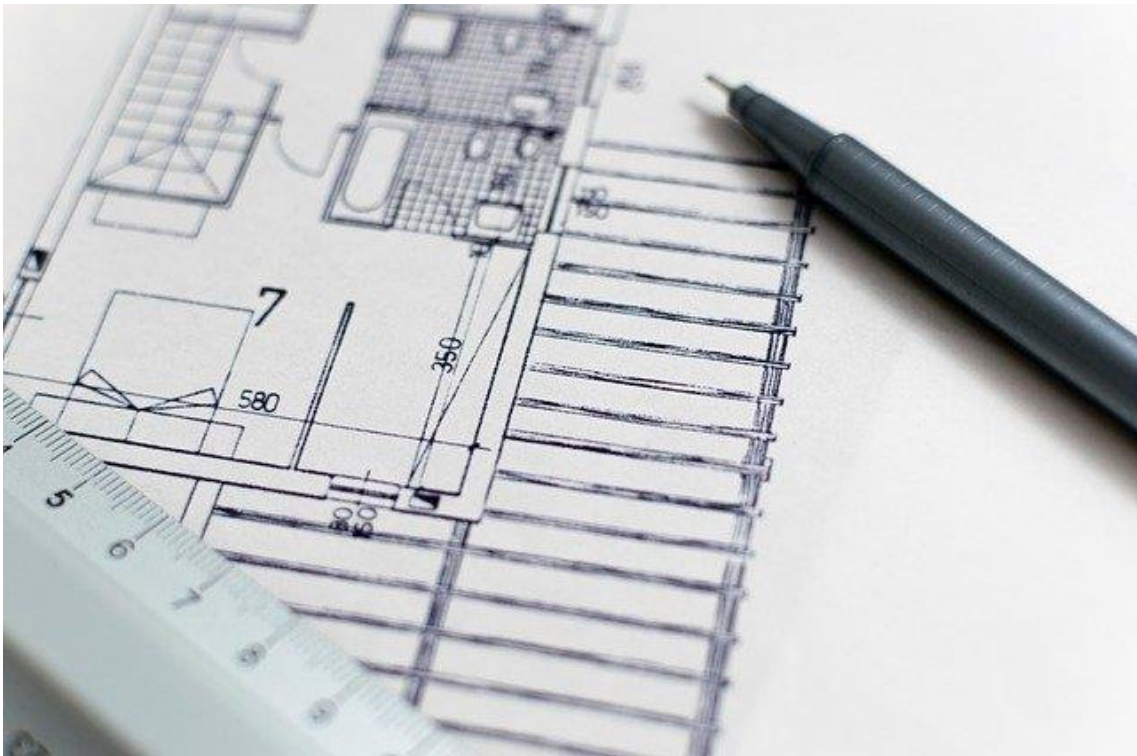
中学生の時、将来は建築家になりたいと思いました。

だから、普通の高校へは行かずに高専という5年制の学校へ行って建築を勉強しました。

高専を卒業後、建設会社で建物の設計をしました。

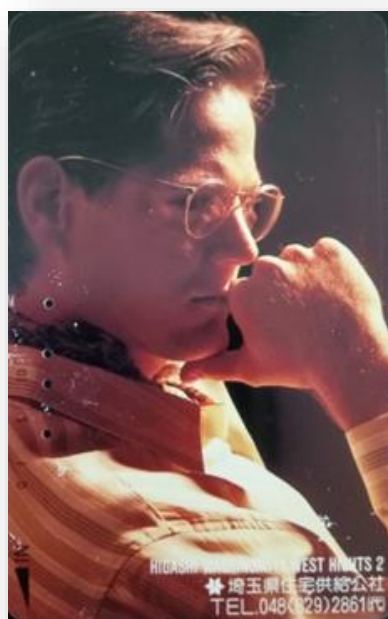
設計の仕事をしていた時、休みになると山登りをしたり、海外旅行をするのが楽しみでした。

一番好きだった旅行先がインドネシアだったので、インドネシア語を勉強するようになり、会社を辞めてインドネシア大学へ語学留学したのがインドネシアへ来たきっかけです。



第4章 建築を通じて協力し合うことを学んだ会社員時代

担当した設計の思い出



(出典:埼玉県住宅供給公社)

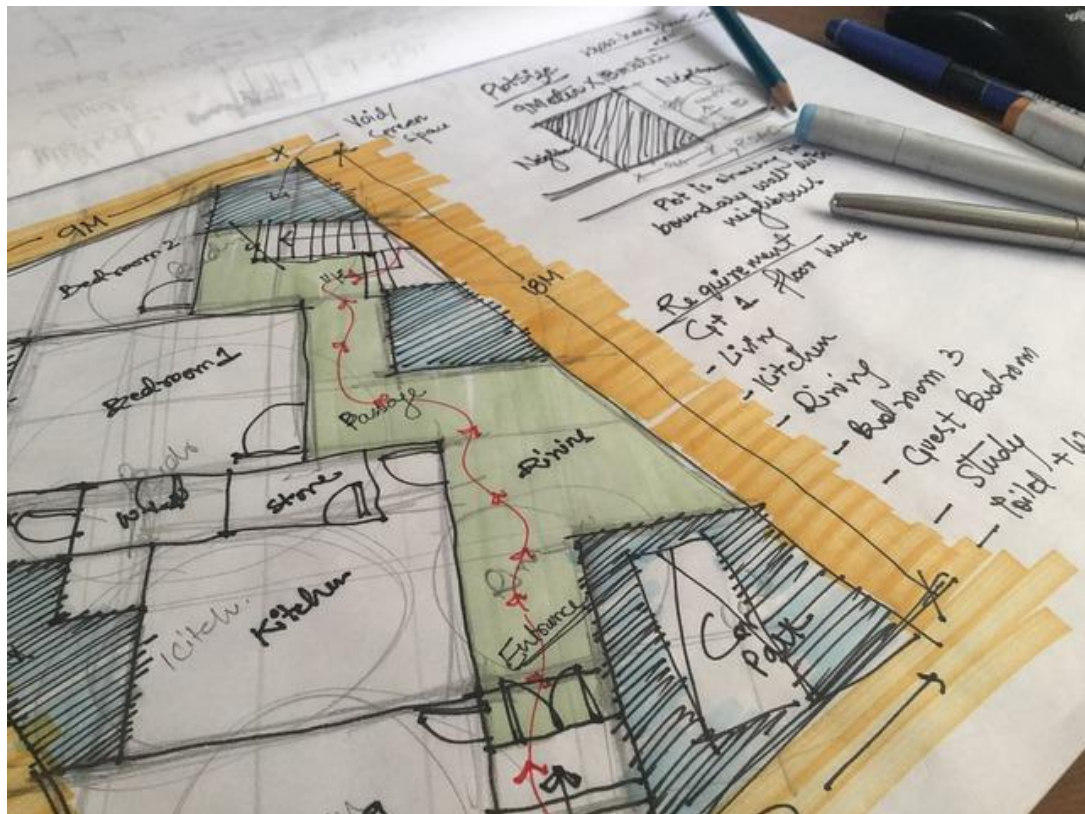
↑埼玉県久喜市 JR 東鷲宮駅付近にある、私が設計を担当した集合住宅の宣伝用テレホンカードです。お客様である公社がテレホンカードを作りました。





(出典:三井プレコン)

↑埼玉県さいたま市にある、私が設計を担当した集合住宅です。お客様は財閥系の不動産会社です。私の働いていた建設会社が、自分の会社を宣伝するために、このテレホンカードを作りました。



学校で学ばなかったことを教えてくれた会社

高専の建築学科を卒業して、建設会社で建築設計をしていた頃は、お客様と打ち合わせをしてマンションの設計図を描いたり、市役所や消防署へその設計図を提出して、建物を建ててもいいよという許可をもらうことが私の主な仕事でした。

市役所の他に消防署にも行かなければならないのは、大きな建物の場合、火事になった時の避難経路を考えた消防の決りを守らなければいけないからです。

このようなことは学校では、ほとんど学んだ覚えがありませんでした。



大きな力を持つ財閥って何

私の働いていた会社は建物の設計（デザインすること）と施工（建物を建てること）をしていました。

江戸時代から続く、日本の 3 大財閥の中でも最も有名な財閥系の会社でした。財閥とは一族（先祖が同じ人たち）によるビジネスグループのことです。

財閥系の会社は同じ財閥や別の財閥の会社とくっ付いたり離れたり、大きくなったり小さくなったりを繰り返して生きているので、江戸時代の頃から、なくなることがありません。

私がいたその建設会社も今は他の財閥の会社と合併（くっついてひとつになること）しています。

偶然ですが、母が働いていた会社も同じ財閥のものでした。

それぐらい日本じゅうにその財閥系の会社があります。

私が働いていた会社の主なお客様は、同じ財閥系の不動産会社（土地や家売る会社）、そして、日本の国のお金でできていて手ごろな値段で家売る公社というものが多く、個人のお客様は数えるほどでした。



建設会社の中身

会社には色々な部署がありました。

会社のお金や人のことは総務部がします。

お客様から仕事をもらってくるのは営業部です。

仕事をもらうには、お客様にどういう建物がいくらのお金で建つのか説明しなければならないので、設計部の中には積算課がありました。

積算課が私たちの描く図面をもとに、材料を始め、機械や人にかかるものなど、建物を建てるために必要なお金を計算します。

建物を建てることは工事が行ないます。



建築設計の中身

私は設計部の中で意匠設計をしていました。

意匠設計とは設計のまとめ役のようなもので、建物の全体の設計図を作ります。

設計の中にはこの意匠設計の他、構造設計と設備設計があります。

構造設計では建物を支える仕組みを図面にします。

設備設計は給排水（水に関すること）と電気に分かれ、それぞれ給排水図面と電気図面を作ります。



ひとつの建物が建つまでには、色々な作業が必要です。

最初は建物が建つ土地を実際に見に行って、土地には水や電気がきているか、土地の周りにはどんな道路があるかなどを調べ、お客様や社内の人と打ち合わせをしながら設計したり、市役所などに許可をお願いしたり、大勢の人の協力で作業が回っていきます。

設計が終り許可がもらえれば工事が始まります。

ひとりでは建てられない建物

建物が建設されている現場を見に行き、設計通りに工事されているか確認したり、現場の人と打ち合わせをしたりするのも設計の仕事です。

工事中、壁や柱が積み上げられ、どんどん上に上っていくのですが、やがて屋根が乗っかることを上棟（じょうどう むねあ棟上げ）といいます。

上棟になると雨の水が上から入らず、工事がしやすくなるので、この日は記念すべき区切りの日となります。

上棟を記念して、5 階建ての斜めになったコンクリート屋根の上に、工事部の人たちとワイワイ大勢で登った時などは印象的で、今でも忘れません。最終的に建物が建った時にも嬉しく思ったものです。

建設会社で働いて、ひとりではできない沢山のことを学びました。



第 5 章 憧れていた語学の仕事

手掛けた翻訳の例



(出典:http://comic-catapult.com/works/garuhdayan_001.html)

↑ 翻訳例: コミック「ガルーダヤナ・サーガ」1～4 巻

インドネシアのコミックをインドネシア語から日本語へ訳しました。

インドネシアのコミックが日本語に訳されたのは初めてのことだったそうです。

ジャワ地方のワヤンという影絵芝居・劇の知識がないと訳せない作品でした。調べ物をしたり、ジャワ古典文学に詳しい人に確認したのでうまく訳せました。

私が訳した日本語はコミックの専門家が雰囲気に合わせて言い回しを変えたところもありますが、そのままになっているところも多いです。

日本語版はインターネットでお試し版が無料で読めます。

インドネシア語版はインドネシアの本屋さんで売っています。



(出典:http://comic-catapult.com/works/gureitozin_001.html)

↑ 翻訳例: コミック「グレイ&ジンガ」

ガルーダヤナの翻訳が終わると、その他のインドネシアのコミックの翻訳も頼まれました。

訳す時に気を付けることは、インドネシア語の意味を省略しないで全て日本語に落とし込むことです。

そして、話し言葉の雰囲気や伝わるように、それらしい表現を使うことです。

私が訳した日本語は、コミックの専門家がもっと日本語として自然な言い回しに変えています。

翻訳会社に頼まれて訳しましたが、訳し方は誰も教えてくれませんので、自分から「このような方法で訳しますがいいですか」と確認をすることが大切です。



(出典:GREY&JINGGA)

↑コミック「グレイ&ジンガ」のインドネシア語原本の例

P S
 ジンガ！
 ジンガ！
 ジンガ！
 ガバッ！
 あー、ザハラ？！
 びっくりさせないでよ！
 全部紙飛んでいっちゃったよ。
 はは、ごめん、ごめん・・・
 あんたのさっきの講義はどうだった？
 まあ、いつもと一緒に・・・
 文学科だからね・・・
 ふー、熱中でできてきたら、
 もう絶対何でも面白くなるんだけどね。
 これ！
 でも、この演劇部は面白くなりそうだね？
 そう思うよ！
 さあ、行こう！

↑コミック「グレイ&ジンガ」の私による日本語訳例



(出典:http://comic-catapult.com/works/gureitozin_001.html)

↑ コミック「グレイ&ジンガ」のでき上がった日本語版例



意見は言えない通訳者

日本から一歩も外に出たことのなかった私は、中学の授業で英語を初めて勉強した頃から、ずっと海外へ行くことに憧がれていました。

そのため、ラジオを聞いて英語を勉強したり、英検を受験したりしました。

当時、活躍していた英語の女性通訳者さんがラジオに登場すると、とても興味深く聴いたものです。

「こんな風に通訳できたら、かっこいいなあ」と思っていたのですが、その通訳者さんが「通訳という仕事は自分自身が出せない仕事。私はもっと自分を出したい」と言っていたことがありました。

「こんなに活躍しているのに贅沢なことを言うものだな」と私は思っていました。

今になってみれば、その通訳者さんの言っていたことがよく分かります。

通訳も翻訳も自分自身を主張したり、表現することは一切ありません。

他の人が言ったり、作ったりした文を訳すという目立たない仕事です。

よほど有名な人でない限り、通訳者や翻訳者の名前が注目されることはありません。



英語だけじゃない世界の言語

やがて、中学を卒業後、通った高専でドイツ語の授業があるようになりました。

英語の他にも世界には言語が沢山あるのだなあと気付きました。

英語を勉強する人は多いので、その中で私が役に立つのは難かしいかとも思ったのはこの頃でした。

建設会社に就職してから、さっそくお給料を使って海外旅行へ行くようになりました。

それをきっかけに韓国語や中国語を独学してみましたが、どれも難しくてもものになりませんでした。

でも、インドネシア語だけは、割と楽に独学することができたのです。



仕事はできる範囲でやってみる

結局、建築の仕事とは全然関係がないものの、子供の時からほのかに憧がれていた語学、つまりインドネシア語の仕事をするようになりました。

最初はインドネシアの首都、ジャカルタに住んでいる日本人の生徒さんを募集し、自分でインドネシア語を教えながら、インドネシア人の先生にはインドネシア語の他、英語も担当してもらいました。

レッスンで予定表はいっぱいでした。

インドネシア語の留学が終っても日本に戻らずに、インドネシア人と結婚しました。

子供が生れてからは育児に集中したので、私は電話口や挨拶に出るぐらいで、インドネシア人の先生に全部を任せました。

生徒さんから翻訳や通訳を頼まれるようにもなっていました。

翻訳は文字、通訳は声によって訳します。

お客様側も私側もインターネットがいつでも自由に使える時代になったことで、特に翻訳の仕事が劇的に増えていきました。



クオリティが良いと山ほどもらえる仕事

こんなに翻訳が多い時代はもう来ないかもしれないと思ったので、レッスンは他の人に任せて、頼まれる翻訳をほとんど全部引き受けました。

4年間ぐらい、寝ても覚めても翻訳ばかりしていました。

ずっと家の中で仕事をしていましたが、小学生だった子供をあまりかまっていられず、申し訳ない思いです。

翻訳した仕事の数全部で多分1,000を超え、お客様の数は30社ほどにもなっていました。

私だけでは手に負えない時は、別の翻訳者さんにも手伝ってもらいました。

翻訳の仕事で一番大事なのは、最後の見直し・手直しです。

訳しっぱなしだと、必ず変なところが残っているので、それを直さなければなりません。

何人かの翻訳者さんに手伝ってもらっても、この一番大事な仕事だけは誰にも任せることができず、ずっと自分でこなしていました。

私自身の作業が多すぎたので、このままでは病気になってしまうかもしれないし、病気になる前にお婆さんになってしまうかとも思いました。

そこで、翻訳の量は今では減らしています。

見た目より手間暇がかかる翻訳

インドネシア語から日本語への翻訳は、私がひとりでもできる仕事ですが、日本語からインドネシア語の翻訳もお引き受けしています。

私が訳したインドネシア語をインドネシア人にチェックしてもらったり、最初からインドネシア人の翻訳者さんに訳してもらい、その後、私がチェックするという方式で行います。

翻訳者とチェック者との間で話し合いになることもあり、その場合は翻訳の言葉が決まるまで、キャッチボールのように何度もやり取りを繰り返します。

翻訳はでき上がった結果だけを見ると分かりませんが、膨大な手間暇がかかっていることも多いのです。



どんなジャンルでも欠かせないインターネット検索

翻訳する内容は色々なものがあり、どんなものでもお引き受けしています。

私の場合、たまたまインドネシアの法律を訳すことがやや多いです。

その他、契約書、証明書はもちろん、観光、環境、工業、食品、医療などジャンルを問わず訳します。

文字の翻訳だけでなく、ビデオの音声を翻訳することもあります。

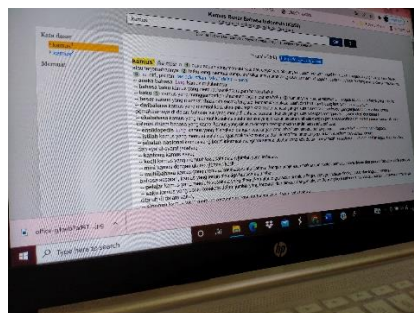
言葉だけでなく、インドネシアについて色々と分かっていないと、うまく訳すことができません。

分からなことが出てきた時はインターネットで徹底的に検索します。

それでも分からない時は、知人や SNS の翻訳者グループの中で聞いてみることもあります。

インドネシア語をよく知っているだけでなく、正しい日本語の使い方を知らないとは訳すはできません。

ですので、日本語の言葉を調べるのが意外と多いです。



体力勝負の通訳と限られている自分の時間

翻訳を手掛ける合間に、通訳をお願いされ、お引き受けすることもありました。

そういう時は、下校する子供をお爺ちゃんに迎えにってもらい、私が帰るまでお爺ちゃん・お婆ちゃんに子供を預かってもらいました。

そして、預かってもらったお礼にお爺ちゃん・お婆ちゃんにお金をあげていました。

私は翻訳は自信がありますが、通訳は実はあまり上手ではありません。

インドネシアの偉い人に会ったり、通訳が難しい内容だと、自分の仕事に満足できませんでした。

それに、体があまり強くないので、通訳に行くと、どっと疲れてしまい病人のようになってしまうのが悩みでした。

自信がある翻訳についても、一生懸命やり過ぎて、まるで翻訳のために生きているみたいになっていました。

これではいけないと思い、今はインドネシア語のレッスン、通訳、翻訳、ビジネスサポートの仕事を自分でもらってきて、実際の仕事のほとんどはスタッフの人にやってもらっています。

ビジネスサポートの例



(出典:<https://youtu.be/8IFOT4rpERU>)

↑ビジネスサポートの例：マンション宣伝用アニメの取材、通訳、翻訳、アドバイス

ジャカルタのクニンガンに建設される高層マンションを売るための宣伝用アニメを作る会社からお仕事を頼まれ、アニメの下調べチームがジャカルタに来た時のスケジュールや段取り、案内を全てお引き受けしました。

現地でドローンによる撮影をしたり、インドネシアの人の家を取材したり、舞踊隊に来てもらったり、バティック(ろうけつ染め)作りが見られるところへお連れしたり、通訳、車、ホテル、食事などのお手伝いをしました。

アニメを作る時には日本語の脚本をインドネシア語と英語に翻訳しました。

アニメができ上がるまでに、インドネシアの人が見てもおかしくないように何度も調整があり、その都度アドバイスをしました。

アニメのショート版は Youtube で見られます。

自分が看板

建設会社で働いていた時は、自分たちの作り上げた家に住む人と話をすることは全くありませんでしたが、今はご利用者の方が直接のお客様なので、私の方からお客様側に働きかけて広告を出したり、お客様からのご質問に答えたり、お金に関する書類を作って説明したり、お客様とのコミュニケーションは全て自分で行います。



広告の例



↑ 広告の例: 広告を出さないと、仕事をしていることがお客様に分かりません。広告はお金がかかりますが、インターネットの発達のおかげで、私たち個人にも手に届く値段になっています。

広告結果の例



↑ 広告結果の例: 広告の反応はスマホなどで簡単に確認できるようになっています。



さいごに

今、あなたは毎日の活動をこなすだけで精一杯かもしれません。

でも、その活動に関係がなくても、興味があって知りたい分野をとことん調べて学んでください。

それが仕事になっても、ならなくても、自分が好きなことを楽しんで取り組めば、必ずためになります。

そして、あなたが仕事をしてお金をもらえるようになったら、あなたのお金を少しでも使って、あなたのお母さん、お父さん、お家の人にお礼をするようにしてください。

あなたが仕事をできるようになるのは、そういった周りの人々に支えられているからです。

人々にとって必要な物やサービスは時代とともに変わっていきます。

ですので、世の中にある仕事の種類も変わっていきます。

今あなたがなりたい職業があっても、今後は世の中の状況も、あなたの気持ちも変わるかもしれません。

例えばあなたが通訳者になりたいと思っても、今後は機械通訳がほとんどになり通訳者は仕事が少ないかもしれません。

そして、例えばあなたが、今は科学者になりたいと思っても、将来はあなたの気持ちは変わっているかもしれません。

自分の思った通りにならなくても、がっかりしないように準備することが大切です。

その準備とは、自分の好きなことを持つことです。

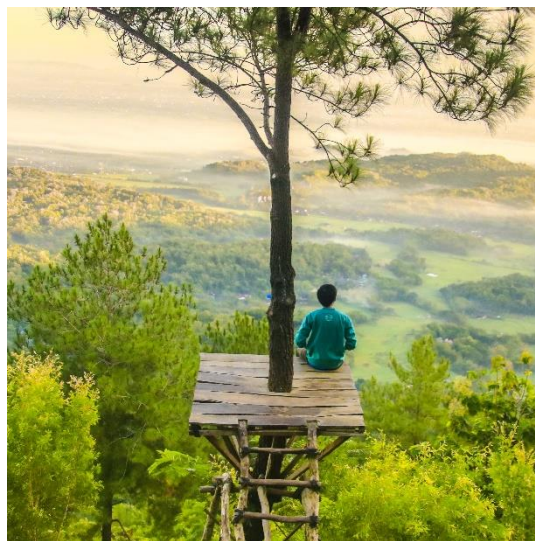
また、私たちは自分ひとりのためだけに働くのではなく、家族のため、子供のため、そして、お客様のためにも働くことを理解することです。

お金が沢山貯まれば、家を貸したり、他の人が行なう事業にお金を貸してあげることで、お金をもらうこともできます。

そうやって、世の中には働いているようには見えないのにお金をもらっている人がいます。

でも、そういう人たちも物やお金を世の中に回しているので、人々の役に立っています。

あなたも人の役に立って幸せになってくださいね。



著者紹介



清水 純子（しみず じゅんこ）

岐阜県生まれ。

岐阜高専建築学科を卒業するまで親元で過ごしました。

東京都の建設会社に就職した時に親元を離れ、約 7 年間ひとり暮らしをしました。

東京では成田空港へ行きやすい場所に住んでいたこともあり、会社が休みの時にはいつも海外旅行をしました。

色々な国へ行きましたが、最終的にインドネシアが好きでインドネシア語を勉強し始めたので、会社を辞めて、インドネシア大学へ語学留学しました。

その後は一度も会社へ就職しないで、インドネシアに住み続け、自分でお仕事をもらって、インドネシア語の先生、翻訳、通訳、ビジネスサポートをしたり、それらを仲間と協力して行なっています。



今、目標としていることは、私が仲間の中のまとめ役をしっかりとできるようになることです。

そして、自分は実際の作業をなるべくしないようにして、自分よりもっと若い仲間に作業をお願いできるようになることです。

自分の経験や知恵を若い人に回すことによって役立ちたいからです。

【著者のビジネスサイト】



インドネシア通訳・ビジネスサポート

<https://indonesia-biz-support.com>



じゃかるたインドネシア語レッスン

<https://bhs-indonesia.com/>

【著者の SNS】

清水純子 Instagram

https://www.instagram.com/alianisa1128_indonesia/?hl=ja

清水純子 Twitter

<https://twitter.com/alianisa>

清水純子 Facebook

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100075086958002>

建築設計社員のあと語学で独立

2019年10月17日 初版発行

2022年 1月 3日 PDF版発行

著者、発行者 清水純子

本書に関するお問合せ先 psejakarta@yahoo.co.jp

本書は著作権が保護されています。

本書の無断転載・複写・翻訳を禁止します。

ASIN: B07Z7YHDTC